
後悔は明日せよ

椿山 市

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

後悔は明日せよ

【Nコード】

N70550

【作者名】

椿山 市

【あらすじ】

リハビリ小説。

もう言葉が多すぎてまとまりが無い……。

何もない。

今の私にはその言葉がびったりだろう。私はいつも虚しさに襲われている。かの有名な芥川龍之介に言わせれば「ぼんやりとした不安」というものに類似したものに取り囲まれていると言っても過言ではない。しかし彼のようにこれにより死ぬ弱さも無ければ勇気も無いので私はダラダラと怠惰な毎日を生きている。

床で転がっている時計を見れば「12」のところで短針と長針が仲睦まじく身を寄せ合っている。本来なら大学にいるはずの私はまた万年床の中でぼんやりしていた。そろそろ外国語の単位が危ういのは私も理解しているはずなのに面倒臭いという悪魔の囁きが先立ってしまい私はいつまでも布団から出られない。溜息をついてからいつものように携帯を開く。いつものようにメールマガジンだらけの新着メールを開いてから充電器を引き抜いた。上半身を起こして大きく伸びをした。

「また授業行かなかったの？」

「いやー、なんかめんどくてー。」

「そんなこと言っていると卒業できなくなっちゃっよ。」

「……………ですよね。」

私はバイト先で賄いの味噌汁をすすりながら気まずい空気の中、精一杯の苦笑いをした。先輩方は呆れた表情で私を見た。無理もないだろう。多分1ヶ月くらい学校には近づいていない。まだ1回生の後期だということになんという体たらくだろうか。やる気まんまんて入学した4月の自分は全くの別人だったと認めざるを得ない。大学と言うものに幻想を抱いていた一人だったといえよう。勝手気儘に自分のしたいことをできるなんて。そんなものは今のご時世、二トぐらいにしか当てはまらないのに。本当に愚かだったとしか言えない。実際は高校時代と変わらぬ、いやそれ以上に質の劣る授業を受け、サークルでは予想以上の拘束具合だ。そしてアルバイト先は遠く本当に散々だ。元を辿れば全て自分が選んだことなのに結局文句しか垂れていない。

そう、あのことだって結局は私が全部私が選んだことだったのだ。

バスから降りて煙草に火をつける。昨日たまたま寄った煙草屋がキヤスターマイルドを切らしていて苦し紛れにピアニッシモを買ってしまった。メンソールが苦手な私が何故これを選んだのかが自分でも理解できない。口の中に慣れない香りが広がる。私は思わず眉をしかめてしまった。

「とことんついてないな。」

思わずこんな言葉が漏れてしまった。しかし選択したのは全部過去の私だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7055o/>

後悔は明日せよ

2010年11月4日07時07分発行